

令和 7 年度 保育所自己評価（総括）

2026 年 3 月 20 日

さくらの郷みらい保育園

1. 組織体制・職員体制

年度開始時に保育士 9 名・栄養士 1 名を採用し、その後も年度中に保育士 2 名・調理師 2 名・栄養士 1 名を採用して、次世代に向けて職員体制を整備した。会議の簡素化や必要書類の見直し等を行い、質を保ちつつ業務を効率化することを検討するなど、世代交代も視野に入れた役割分担や評価体制を構築すべく、年間通して様々な取り組みを行った。

年度途中から年度末までに各職種あわせて 5 人が退職したが、年度中の採用も含めて、十分に補充できている。

2. 保育内容・実施

緑区こども家庭支援課等関係諸機関と連携をとりながら保育を行うケースが多くみられた。また、保育園の集団生活において個別支援が必要なケースも多く、専門機関との連携を取りながら対応を進めていった。行事に関しては、前年度のアンケート結果内容も反映させながら、各クラスの実情に応じた内容で実施した。年齢ごとの保育は、子どもたちの成長段階に応じて、無理のないゆったりとした保育を行った。更に幼児クラスにおいては各自が自由に発言し活動できる保育内容を考慮しながら、異年齢グループの活動も取り入れ、幅広い経験を積める内容とした。個別支援が必要な子どもに対しては特性に合わせた環境を用意しながら一人一人に適した保育を目指した。感染症などの子どもの体調不良時に関しては、各ご家庭のご協力が大きく、年間通して感染症等の拡大・蔓延を防ぐことが出来た。月ごとの食育のテーマに応じて、乳児から幼児まで 食材に興味を持てるような食育活動を行った。園庭の整備充実にも『園庭環境整備チーム』が年間通して取り組み、野菜・稲の 栽培収穫のほかに、草木や花・虫等に子どもが自由に触れて遊べる環境を整えた。

3. 研修・研究

前年度に引き続き未受講の職員や新入職員を優先してキャリアアップ研修の受講を進めた。各種の研修案内を掲示し、職員が自由に希望の研修を受講できる体制を整えとともに、園内研究チームでの研究も継続した。園内研究の成果は実際の保育の中でも活用することができた。

4. 次年度へ向けて

- ・園長の交代に伴い、新体制への移行を進めていく
- ・社会の多様化に伴い、子ども・家庭の多様化に対して理解を深める努力をする
- ・個別対応が必要な子ども・家庭への対応について、各関係機関との連携を強化して進める
- ・個々の職員の内外の研修や研究を進め、専門性を高めるために研鑽に努めるとともに、各自の創意工夫の下に独自性のある保育を実施する
- ・他園や学校等との交流を更に深めて、子どもたちの経験の幅を広げる
- ・園庭開放や育児相談等を通して、地域の子育ての課題解決に積極的に取り組む
- ・世代交代・継承を視野に入れた組織運営を取り入れる
- ・経験年数の長短にこだわらず、個々の職員の能力や資質を評価したキャリアアップ体制を構築する
- ・それぞれの職員の特性を考慮し、強みを生かせる組織体制とする